



# 医学部だより

第43号

2021.10.1



## 徳島大学医学部の近況

医学部長 赤池 雅史

新型コロナウイルス感染症は、L452R変異株（デルタ株）の出現により全国の新規感染者数が2万人を超え（8月13日時点）、第5波が到来しています。この状況のなか、医療従事者等への新型コロナウイルス感染症に係る予防接種として、診療現場で実習を行う学生を対象に、6月21日に1回目のワクチン接種が実施されました。また、キャンパスライフ健康支援センターが中心となり、多くの教職員の協力によって同日より大学拠点接種が開始され、診療現場教育の有無にかかわらず、学生は教職員同様に8月21日までに2回のワクチン接種が可能となりました。この接種は本人の希望と同意に基づくもので、強制や接種の有無による不当な扱いがなされないように十分な配慮のもとで行われています。また、まだ接種を受けられない方がいる状況において、一刻も早く安心して大学へ通えることを目的として実施が認められたことを自覚し、接種後も三密の回避や感染リスクの高い活動の自粛等、社会から理解が得られる適切な行動をとることが求められます。

このワクチンの開発については、カタリン・カリコ博士が発見した、mRNAを構成するウリジンをシュードウリジンに置換することで炎症反応が抑えられる技術に基づいています。カタリン・カリコ博士は、ハンガリー出身の科学者で、大学卒業後アメリカに渡りましたが、研究成果はなかなか評価されず、40年にわたる研究生活は苦難の連続であったと報道されています（NHK 単独インタビュー、2021年5月27日）。また、ワクチン開発に貢献したビオンテックはドイツのベンチャー企業で、研究者かつ医師であるウール・シャヒン氏とエズレム・テュレジ氏の夫妻が創始者であることが注目されています（朝日新聞、2020年12月19日）。この開発経緯をみると、社会の課題を解決

するには革新的な基礎研究成果がきわめて重要であること、その未来の社会的価値は今見えるものではないこと、研究成果を迅速に社会的実装に繋げるにはベンチャー企業の役割が大きいことに気づかされます。最近ではイノベーション教育やアントレプレナーシップ教育が強く推進されていますが、目先の成果やいわゆる経済的成功のみに主眼を置くのではなく、医療人ならびに生命科学研究者としての使命感や研究に対する真摯な態度を見失わない教育を進めなければならないと強く感じます。

新型コロナウイルス感染症対策として急速に普及したオンライン手法は、学生・教員にすっかり定着し、スクール形式授業のみならず、PBLチュートリアルやワークショップでも広く活用されています。また、委員会、教授会、講習会、学会・研究会等も、オンライン開催によって感染流行による影響を最小限に抑えることができています。オンライン手法は場所の確保や移動が不要なため、学部学科横断的、あるいは学内外連携の取り組みに非常に有効であり、感染対策を超えた新しいツールとして今後定着していくと考えられます。一方、学修は他者との関わりや実際に知識を使う文脈の中で進めることが不可欠です。この度の医師法の一部改正により、医学生に対しては令和5年度から臨床実習前共用試験（CBT、OSCE）が公的化され、臨床実習での医行為の実施が法的に位置付けられました。これは診療現場教育の充実と卒前・卒後教育のシームレス化を目的としたもので、この流れは医師以外の医療職の教育にも拡大していくと思われます。医学部としては、新型コロナウイルス感染症対策に努めながらも、オンライン教育の充実と並行して、ポストコロナを見据えた対面での診療現場教育の充実と改革を強力に進めていく所存です。

### 目次

### CONTENTS

巻頭言	1	各賞受賞者	8
オンライン留学体験記	2	学遊抄	9
新型コロナウイルス感染症：変異株、ワクチン、治療薬の現状	3	数字で見る医学部	10
がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師育成プログラムについて	4	令和3年度診療参加型臨床実習後OSCE成績優秀者	11
医歯薬学共同利用棟「すだちホール」について	5	新任教職員ご挨拶	11
オープンキャンパスWEB版報告	6	新任准教授紹介	12
学生委員会から	7	医学部行事予定	12
教務委員会から	7	編集後記	12
徳島医学会報告	8		



# オンライン 留学体験記



## 南イリノイ大学

報告



医学科2年 宇田川 明 郁

一年次の夏休みの約一か月間、南イリノイ大学のオンライン留学に参加させていただきました。様々な国の生徒とともに、英語の文法やコミュニケーション、プレゼンテーションの授業を受けました。授業中には必ず、生徒同士で英語を使ってコミュニケーションをとる時間がありました。英語を母語としない他国の生徒とのコミュニケーションは簡単ではなかったので

すが、それを通して自分の発音や表現方法を改善することができました。また、他国の生徒と文化について話すこともあり、「文化を学ぶ」という点でもよい経験になったと思います。

このような貴重な機会を与えてくださった先生方や、関係者の皆さまにこの場を借りて深く感謝申し上げます。

医科栄養学科3年 谷 口 萌々花

このオンライン留学では、文法、リスニング、スピーキング、リーディングといった英語を学習するうえで重要となる全ての技能を磨くことができました。とくに文法の授業では、英語ならではのニュアンスの違いを英語で学習することで、これまでの学習では学ぶことのできなかった知識を身に付けることができたと感じています。授業中は常に participation を意識して取り組むことで、自分の意見をすばやく、正確に英語で表現する楽しさを実感しました。また、様々な国籍の人と話す中で、異文化を理解するだけでなく、日本についてももっと知りたい、伝えられるようになりたいと感じるようになってきました。さらに、私は、今回の研修のなかで、英語を学習する意義

を明確に見いだせたことが最も大きな成果と感じています。これまでは何となく、アメリカの文化に興味があるから、などの理由で英語を学習していましたが、SIUの先生に、「外国語を学習することは、考え方を広げること」だと教わり、強く共感しました。今後、英語を学習していくことで、いつか英語学習者から英語話者になり、それまでの自分とは全く違う考え方、物事に対する視点を持つてみたいと思いました。この4週間で感じた外国語を学習する面白さを忘れることなく、これからも楽しんで英語を学習していこうと強く思いました。このようなご時世でも、オンラインという形で留学を体験することができる機会を作ってくくださった方々に心より感謝申し上げます。



保健学科2年 田 中 真保子

昨年の8月に参加した南イリノイ大学へのオンライン留学の体験記を書かせていただきます。大学生になったら留学したいという思いがずっとあったにも関わらず新型コロナウイルスの流行により、現地に行くことは難しい状況でした。そこでオンライン留学に参加させてもらいました。オンライン留学とはどのようなものかととても不安でした。最初の数日は聞き取れない

ことも多くとても悔しかったですが、少しずつ会話ができるようになり成長を感じました。しかし、この留学で私は意見を論理的に言うことが苦手だと実感しました。クラスメートや先生方に支えられ、1か月という短い期間でしたがとても有意義で実のあるものにできました。最後に、このご時世に貴重な経験を与えてくださった皆様に感謝します。

# 新型コロナウイルス感染症： 変異株、ワクチン、治療薬の現状

大学院医歯薬学研究部呼吸器・膠原病内科学分野 教授 西岡安彦

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の第5波が全国的に拡大しています（図参照）。高齢者から開始されたワクチン接種が進んではいるものの65歳以下の成人に対する接種率は依然として低く、この年齢層を中心に感染が再拡大しています。また様々な新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）変異株の出現によりウイルス自体の感染性が高まっているのも要因となっている可能性があります。一方、現在接種されているファイザー社製およびモデルナ社製の mRNA ワクチンに加え、治療薬の開発も異例のスピードで進んでいるのが現状です。2021年7月現在の変異株、ワクチン、治療薬の現状について概説します。

SARS-CoV-2にはゲノム約3万塩基のどこかに2週間に約1回変異が起きていると言われていています。その変異によってアミノ酸に変異が起こるとタンパク質の機能が変化し、感染性や病原性が変化する可能性があります。世界中どこかの地域でも変異は起こりますが、当初変異株は最初に見つかった地域の名前で呼ばれていました。しかしながら、誤解を生む要因になるとしてWHOは5月31日に変異株をギリシャ語のアルファベットの呼ぶことを発表しました。そして多くの変異株の中から、WHOが指定する「懸念される変異株（variants of concern: VOC）」と呼ばれる性質が変化した可能性のある変異株のみに対して新名称を適応しています。現在注目されているデルタ（ $\delta$ ）株は、命名法による正式名称はB.1.617.2系統と呼ばれる変異株で最初にインドで見つかった変異株です。これまで見つかった変異株ではワクチンで誘導される抗体の中和活性の低下が認められていますが、一定の中和活性は保たれているようです。ワクチンで誘導される抗体が多クローン性であることも、その要因と思われる。

COVID-19のパンデミックは人類を脅かす感染症です。しかしながら、人類は新たな感染症に遭遇するたびにその対処法を確立し克服してきた歴史があります。まだまだCOVID-19感染の今後は見通せない状況ではありますが、COVID-19との闘いの中で革新的な医学の進歩が生まれているのも事実です。それがワクチンと治療薬の開発です。新たな感染症に遭遇し、僅か1年足らずでワクチンが開発されました。これらのワクチンは、mRNA ワクチン、ウイルスベクターワクチンと呼ばれ、長くがんワクチンの研究領域で基礎技術が磨かれてきた背景があります。従来のワクチン開発の経緯から考えると驚異的なスピードと言えます。COVID-19対策で一つのハードルを越えたこれら遺伝子医薬品開発技術は恐らく今後様々な医療分野に応用されることが

予想されます。

一方、2021年7月までにCOVID-19に対して本邦で承認された治療薬は、デキサメタゾン（ステロイド製剤）、レムデシビル（抗ウイルス薬）、バリシチニブ（JAK 阻害薬）の3剤でした。デキサメタゾンとバリシチニブはCOVID-19で生じる激しい炎症を抑える薬剤、レムデシビルはSARS-CoV-2と同じRNAウイルスであるエボラウイルスに対して開発されていた抗ウイルス薬です。いずれも元来SARS-CoV-2に対して作られた薬剤ではありません。そのような中、7月19日にカシリマブ／イムデビマブという抗体カクテル医薬品が承認されました。SARS-CoV-2のスパイクタンパクを認識する2つの抗体製剤で、感染初期に重症化リスク因子を持つ患者に対しての投与が推奨されています。これらの抗体医薬品の開発も従来にはない手法を用いて短期間で開発され、軽症例に抗体医薬を投与する点や2つの抗体をペアで使用する点など、従来の医療の概念を大きく凌駕した医薬品です。現在、経口薬の開発も進んでおり、医学の進歩がCOVID-19を克服する日が少しずつ近づいているように思います。

しかしながら、現状ではまだまだしっかりした感染対策が重要で、ワクチン接種を進めつつ、密を回避し、手洗い・マスク着用を継続することが広く求められます。

（参考文献：COVID-19ワクチンに関する提言（第3版）、一般社団法人日本感染症学会ワクチン委員会、厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料、NEJM2021; doi:10.1056/NEJMoa2108891, NEJM2021;384:238, Science2020; 369:1010）

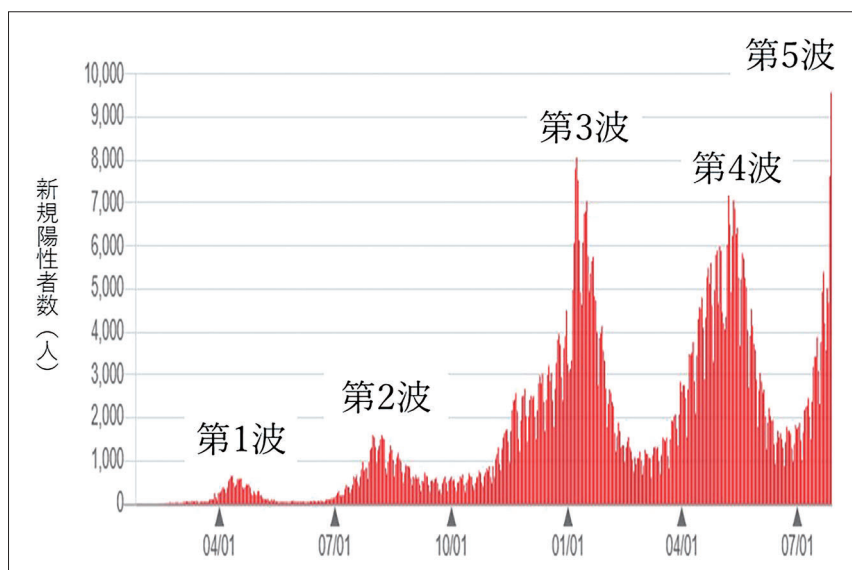


図 新規陽性者数の推移（厚生労働省HPより）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

# がんゲノム医療で活躍できる 臨床検査技師育成プログラムについて

医用検査学系 微生物・遺伝子解析学分野 教授 片岡佳子

## 1. 初めに

現在の医療においては、患者さんの全ての検査データを総合して解釈し病態を理解すること、および検査情報を科学的根拠に基づいて発信し、チーム医療や地域医療などに積極的に関わることが特に重要になっています。

医用検査学系では、高度化・専門化の進む検査技術を理解したうえでチーム医療に関わり、患者さんの重症度を踏まえた診療支援ができ、新しい検査技術の開発にも貢献できる人材の育成を目標としています。そのために、学部や大学院の講義に、医療現場での臨床病理検討会における討論形式を基本として多職種医療人が臨床検査データをもとに症例の病態を推定していく Reversed CPC (Reversed Clinico-Pathological Conference) を取り入れています。学部1～3年次に学修する知識・技術を統合して、臨床症例の病態を考える過程で各種検査の特徴や意義についての理解を深め、根拠に基づいて意見を述べる能力の養成に努めています。大学院保健科学教育部では、学部教育で得られた能力を基盤として、専門性に特化した研究を行い、さらに高度な専門知識・技術力や応用力・観察力・洞察力・科学的論理的思考力等の研究能力を身に付けた、高度医療専門職医療人の養成を進めています。



臨床検査データをもとに症例の病態を推定していく Reversed CPC

## 2. 「がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師の育成」のための大学院教育プログラムの設置

がんの診断・治療に関する医学の進歩は目覚ましく、従来の病理組織診断に加え、がん関連遺伝子変異の検出や抗がん剤の効果にかかわる患者側の遺伝要因の検査なども重要になってきています。正確な検査結果を得るためには、検査材料の採取と前処理、核酸の抽出と品質の確認、目的にあった検査法の選択と実施・精度管理、適切な結果の解釈と考察のすべてのステップが適切であることが必要です。これらのステップのいずれか

が適切ではないことが判明した場合には、検査担当者からの率直な情報発信が望まれています。平成30年には日本病理学会から「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」が刊行され、病理検査全般と遺伝子検査技術の両方に習熟し、医療従事者や患者さんに説明ができる人材の育成が急務となっています。

そこで、令和3年4月より、保健科学教育部博士前期課程(医用検査学領域)において「がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師の育成」のための新しい教育プログラムを開始しています。病理解析学分野の山下理子准教授の指導の下で、修士2年間の研究活動を行いながら、徳島大学病院病理部において1年間の実地研修を積むことにより、細胞検査士の認定試験の受験資格の要件を満たせる、という大学院教育のプログラムです。徳島大学病院病理部他、徳島県の病院の細胞診標本を用いた自己学習を支援します。開始したばかりでこのプログラムの実績はこれからですが、2年間の臨床検体を用いた病理学的な研究、細胞診の勉強、遺伝子関連学会・研修会・カンファレンス参加を通じて、修士号を取得でき、患者さんや医師に対してがんに関する検査の説明や対応ができる能力を磨くことができます。本人が希望すれば遺伝子分析科学認定士(初級)の資格取得を目指しての学習も支援します。

## 3. 今後に向けて

がんや感染症などの遺伝子検査において、検体採取、前処理、保管～結果報告までを適確に行うことのできる人材の育成には時間がかかります。大学院において、臨床材料の病理と遺伝子関連の両方に関連した研究に携わることは非常に有意義な経験になることと思います。遺伝子検査未経験の社会人の方も含めて、ぜひ大学院でのこの新しいプログラムに興味を持っていただければ幸いです。

### がんゲノム医療で活躍できる 臨床検査技師育成プログラム

2021.4.1～ 大学院保健科学教育部医用検査学領域に「がんゲノム医療で活躍できる臨床検査技師育成プログラム」を新設しました。

- 徳島大学大学院保健科学教育部博士前期課程(病理解析学分野)での研究活動を行いながら、徳島大学病院病理部他での実務研修を行う。  
→ 細胞検査士試験の受験資格を得られます。
- 徳島大学病院病理部他、徳島県の病院の細胞診標本を用いた自己学習を支援します。
- 2年間で細胞検査士に合格できなかった場合でも、臨床検体を用いた病理学的な研究、細胞診の勉強、遺伝子関連学会・研修会・カンファレンス参加を通じて、下記を目指せます。
  - 修士号取得
  - 患者さんや医師に対し、がんに関する検査の説明や対応ができる臨床検査技師

保健科学教育部博士前期課程(医用検査学領域)における新しい教育プログラム

## 医歯薬学共同利用棟「すだちホール」について

医学部棟と歯学部棟を結ぶ3階建ての連絡棟が2019年2月に完成し、2019年4月1日から利用を開始しました。名称は「医歯薬学共同利用棟」となり、蔵本キャンパスのシンボリックな建物になりました。

医歯薬学共同利用棟は、3階に病院の総合臨床研究センターの事務室が入り、2階は、医歯薬学研究部教員の研究室が入っています。1階には病院内ローソンの小型店舗が入り、ローソンから北側に行くとき大きな憩いのスペースがあります。ここでは飲食や歓談の場に利用出来るように椅子や机を完備しており、Wi-Fiも完備しています。このスペースの愛称を学生・教職員から公募し、徳島県人になじみ深いすだちのようにみんなに親しまれる場所になって欲しいと願いを込めて「すだちホール」に決定しました。すだちホールの壁には、医歯薬学研究部をはじめ、各学部、学科の歴史を紹介したパネル、また徳島の医学教育の源流である関完齋を紹介したパネルを設置してい

ます。学内はもとより、外部の方にも医歯薬学研究部を知ってもらうために工夫を凝らしています。すだちホールにお越しの際は、ぜひ壁に掛かったパネルもご鑑賞ください。

現在、すだちホールは、学生の皆さんに親しまれる憩いの場となり、平日の昼間には、学生の皆さんが談笑する姿が見られます。令和2年度卒業式・令和3年度の入学式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、代表者のみでの挙行となりましたが、共同利用棟前には、卒業式・入学式の記念撮影用の立看板を設置し、多くの卒業生・入学生の皆さんが記念撮影する光景がありました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、すだちホールでも感染対策のため、全ての座席について座席間隔を確保し、手指消毒の徹底等感染対策を講じています。

多くの学生の皆さんがすだちホールをご利用いただけるよう1日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願っています。



◀ 医歯薬学共同利用棟外観



◀ すだちホール



## 医学科

令和3年度の医学部医学科のオープンキャンパスは新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年に続き、対面開催が中止になりWEBにて実施することになりました。

昨年の内容が好評でしたので基本路線は踏襲しました。赤池医学部長と橋本医学科長の挨拶、心臓血管外科秦広樹教授と脳神経外科高木康志教授の模擬授業、在校生による座談会、卒業1年目の卒業生の座談会等といった内容です。特に卒業生座談会は今年度新たに追加したもので、本学医学部医学科と徳島県の魅力について県内外で勤務を始めた4名の医師に語ってもらいました。司会をつとめました徳島大学と徳島県の魅力を再認識できる部分も多々あり、貴重な体験となりました。

このWEB版オープンキャンパスは令和4年3月末まで公開



されます。

多くの受験生に視聴していただき、たくさんの志願があることを期待しています。

(医学部入試委員長(臨床神経科学分野 教授) 和泉唯信)

## 医科栄養学科

令和3年度の医科栄養学科のオープンキャンパスは、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響でWEB版での開催となりました。内容

は、大学受験生サイトに載せた動画を閲覧してもらう、という昨年と同じ形式としました。動画は酒井学科長のご挨拶から始まり、医科栄養学科の紹介、教員から高校生の方々へのメッセージ、教員によるミニ講義、在学生同士のインタビューによる講義・部活・バイトも含めた学生生活の紹介、アドミッション部門からの入学者選抜の概要の紹介となりました。公開日から1か月でのページビュー数は989で、1日の平均ページビュー数は32となっています。これらの動画は令和4年3月まで公開さ

れます。例年、大学入学共通テストが終わってからのホームページの閲覧数が増えるようですので、進路の最終決定に向けて役立てていただければと思います。

コロナウイルス感染拡大以前のオープンキャンパスでは、在学生が高校生を案内するキャンパスツアーに好評をいただきましたが、今年も校舎の見学や在学生との交流ができませんでした。昨年度のWEB版オープンキャンパスに対するアンケートでも、「キャンパス内の雰囲気や構造も見てみたい」、「先輩たち含め大学の雰囲気を肌で感じたい」とのコメントをいただき、やはり医科栄養学科の雰囲気を何らかの形で体感してもらうことが求められると感じます。来年度のオープンキャンパスが対面形式で開催されることを願います。

(医学部副入試委員(生体栄養学分野 講師) 中尾玲子)

## 保健学科

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和3年度の医学部保健学科のオープンキャンパスも、昨年度に引き続きWEB開催となりました。保健学科における公開日(7月21日)から1か月のページビュー数は、看護学専攻で1,058、放射線技術科学専攻で695、検査技術科学専攻で601、保健学科3専攻あわせて2,354と、既に多くの方々に視聴していただいております。

令和3年度オープンキャンパスWEB版の動画内容は、昨年度ご視聴いただいた方々からのアンケート結果や、現在、看護学専攻1年生を対象とした調査結果等をもとに、高校生と保護者の方々のご要望に沿った、より役に立つ情報を盛り込んでおります。保健学科を卒業後に取得可能な国家資格と、それぞれ

の専門職の役割をわかりやすく説明しておりますので、将来の進路決定の参考にしていただければと思います。また、徳島大学ならではの特徴や強み、各専攻の授業内容や実習の紹介、大学4年間の学習スケジュール等についても具体的に説明しております。

さらに、対面でのオープンキャンパスが叶いませんでしたので、できるだけ徳島大学医学部保健学科での大学生活をイメージしていただけるように、施設や授業・実習の様子について、写真を用いてご紹介させていただいております。看護学専攻では、「コロナ禍の大学生活の楽しみ方」等、在学生からのメッセージも載せておりますので、ぜひご視聴ください。

(医学部入試委員(地域看護学分野 教授) 岡久玲子)

## 学生委員会から

医学部学生委員長  
(顕微解剖学分野 教授) 鶴尾吉宏

医学部学生委員会は、10名の教授および准教授の委員から構成されており、医学科の基礎系から3名（鶴尾吉宏、富田江一、有澤孝吉）、臨床系から2名（廣瀬隼、秦広樹）、医科栄養学科から2名（濱田康弘、酒井徹）、保健学科から3名（森田明典、岸田佐智、富永辰也）の委員が担当しています。本年度の委員長は鶴尾吉宏が、副委員長は森田明典先生が務めています。この組織は、医学部と大学院における学生生活に関わる諸事項を審議して学生生活の支援を行っています。学生の修学指導はもちろん、学内外での課外活動の監督、奨学金貸与の選考や、表彰や懲戒に関するもの他にも、身分異動、福利厚生、健康・保険や安全に関すること、進路、就職や留学、国際交流に関することなど学生生活に関係する多数の内容を扱っています。

この委員会の役割は、医学部の学生が上記の諸項目において安全で快適な学生生活を送ることができるように支援することです。学生生活において休学願や復学願の提出が必要な場合にも、その都度相談等に当たっています。但し、学生の非遵行為が認められた場合には、学生委員会が事情聴取などを行い、学長に報告し全学の学生委員会で処分の量定をして懲戒などの厳しい判断が必要となる事例もあります。また、学生証を紛失した場合には再発行の手続きが必要となりますが、学生証は身分証明書であると同時に、学内のセキュリティ情報が入力されていますので、医学科の5年次からの臨床実習での病棟への出入りの際などに必須となります。紛失した後に速やかに届けられない場合には、再発行できない事態も生じますので、学生証の管理には十

分な注意を払うようにお願いします。

本年度においても昨年から続いております新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、本学も遠隔授業による講義・実習等を継続して実施しなくてはならない状況にあり、学生の皆様には大変な負担を背負いながら学生生活を過ごしていただいております。生活面においても、新型コロナウイルスの感染予防のために、3つの密（密閉、密集、密接）の回避、まん延防止ならびに緊急事態宣言の指定・対象地域への移動の制限、会合などへの参加の自粛、課外活動の当面の禁止、各自の感染対策（マスク着用、手洗い、うがいの励行）の徹底などを通じて、本学学生としての責任を自覚して節度ある行動をとっていただいております。感染予防のためにワクチン接種が進んでおりますが、新型コロナウイルス感染の再燃が懸念されますので、学生の皆様には引き続き感染予防のための適切な行動をとっていただくようお願いいたします。また、学生の皆様には、大学内はもとより学外においても、医療関係者として将来社会で仕事をする使命を受けていることを常に自覚し、正しい倫理観と道徳心を持って行動するように心がけてください。

学生生活は自主・自立が基本であり、学生には自己責任が問われます。しかし、学生生活で困ったことが生じた場合には、医学部学生委員会の先生方ならびに学務課の学生係の担当者が相談に応じています。良い解決策が見つかるように協力いたしますので、気軽に連絡して相談に来てください。

## 教務委員会から

医学部教務委員長  
(疾患病理学分野 教授) 常山幸一

医学部教務委員会は医学科（赤池、安倍、久保、西良、佐田、田中、谷、常山、鶴尾、西田、西村、野間口、森岡）、医科栄養学科（瀬川、竹谷）、保健学科（岩佐、遠藤、吉永）、医学部学務課（宮川）の19名の委員で構成され、卒業臨床研修センター、医療教育開発センター、医学部教育支援センター、医学部学務課などの関係機関と協同で、医学部の教育課程の編成や授業科目の履修方法、進級及び卒業の認定、留学や他大学等との授業科目の履修、授業概要の作成等、学生の学習に関する事項の助言指導を行っています。徳島大学医学部としてどのような学生（医師、管理栄養士、看護師、検査技師等）を育てるのか、というアウトカムを教員と学生の双方が共有し、実践できるよう教育をたゆまなく改善・実行していくのが教務委員会の役割であり、現在直面している教育に係る諸問題から、社会の要請に対応しうる将来的な制度設計まで多岐にわたって協議を行っています。

最近取り組んでいる課題の1つに、教養教育から専門教育へのシームレスな連携の促進が挙げられます。医学科では高学年まで継続的に英語能力を涵養するため、教養の英語教育の見直しに着手しました。今後は医学英語の拡充などを通じ、専門教育の中でより実践的に英語を学習する機会を設けていくことが必要です。また、関連する専門領域

が共同で実習を行う基礎医学統合実習も始まり、基礎医学や行動医学、社会医学などの「水平統合」や、基礎医学から臨床医学へ繋がる「垂直統合」の可能性が検討されています。これまで学問領域ごとに学んでいた「臓器」や「疾患」を統合化して学ぶことで、バラバラな知識が集約され、より深い理解につながると期待されます。もう1つの重要な検討課題は臨床実習の拡充です。診療参加型臨床実習の期間延長が必須となり、それに関連して様々な変更や対応が必要となっています。現在2ヶ月間にわたって行われている卒業試験も次年度から統合化されることとなりました。今後も様々な変更が必要となると想定されますが、アウトカムの達成と学生さんの負荷の軽減を両立できる方法を探っていくことが最重要と考えています。

教務委員会では本年度もCOVID-19の感染状況に応じて、「十分な感染対策」と「教育の継続」を両立できる最善の方法を審議しています。遠隔授業が急速に普及し、教員も学生も遠隔環境に慣れてきたことは大きな成果ですが、遠隔授業の限界も見えてきています。Post COVID-19時代の新しい教育様式を考える上で、遠隔授業を活かしながら、足りないところを如何に補っていくかが重要な課題と考えています。

# 徳島医学会報告

## ■ 第263回徳島医学会学術集会(令和3年度夏期)

第263回徳島医学会学術集会は、令和3年8月29日(日)に徳島県医師会館を会場に開催された。今回の大学側の担当は、代謝栄養学分野 阪上 浩教授、循環器内科学分野 佐田 政隆教授が務めた。前回と同様に、新型コロナウイルス COVID-19 感染の対策を講じての開催となった。対面形式のポスター発表は行わず、講演は、十分な感染対策のうえ、県医師会のネットワークを通じた Web 配信とした。ポスターは、音声付き MP4 形式でホームページ上に2週間公開し、徳島医学会賞および若手奨励賞の審査を行うこととした。会場では、教授就任記念講演として、公衆衛生学分野 森岡 久尚教授による「徳島における公衆衛生の推進について」、心臓血管外科学分野 秦 広樹教授による「最新の心臓血管外科治療～今求められている治療とは～」をご講演いただいた。赤池 雅史医学部長、齋藤 義郎県医師会長のご挨拶の後、第46回徳島医学会賞及び第25回若手奨励賞授与式が行われ(写真①)、引き続き徳島医学会賞受賞記念講演として、徳島大学病院消化器・移植外科 齋藤 裕先生による「ヒト脂肪由来間葉系幹細胞から肝細胞様細胞の創出-肝不全・代謝性肝疾患に対する肝移植から細胞治療へ」、医療法人平成博愛会博愛記念病院 折野 亜衣

代謝栄養学分野 教授 阪上 浩  
循環器内科学分野 教授 佐田 政隆

先生による「骨卒中みそ汁提供による25-OH ビタミンD改善への取り組み」をご講演いただいた。続いて、公開シンポジウム「生活習慣病を克服して、健康寿命を延伸するために」では、徳島大学大学院医歯薬学研究部循環器内科学分野からは山口 浩司助教と佐田 政隆教授がそれぞれ「生活習慣病から起こる心臓病について」、「徳島県循環器病対策推進計画」(写真②)、徳島大学病院循環器内科からは八木 秀介特任教授と伊勢 孝之助教がそれぞれ「生活習慣病を運動で予防する」、「カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)によって激変した大動脈弁狭窄症治療」をご講演いただき、また徳島大学病院糖尿病対策センターからは船木 真理センター長・特任教授に「血清アディポネクチン値に基づくメタボリックシンドロームの発症予測」をご講演いただいた。さらに徳島大学大学院医歯薬学研究部代謝栄養学分野からは堤 理恵講師が「生活習慣病の栄養学～最近のトピックスを交えて～」の講演を行った。本学術集会の開催にあたり、徳島県医師会、徳島医学会事務局、関係スタッフの皆様およびご参加、ご協力いただいた関係の皆様にも、心より感謝申し上げます。

(文責：代謝栄養学分野 教授 阪上 浩)



写真① 第46回徳島医学会賞及び第25回若手奨励賞授与式  
(左より、齋藤義郎県医師会長、折野亜衣先生、齋藤裕先生、三宅(濱田)哲有先生、赤池雅史医学部長)



写真② 公開シンポジウム  
「生活習慣病を克服して、健康寿命を延伸するために」の様子

### ◆◆ 各賞受賞者 ◆◆

■ 第262回徳島医学会学術集会(令和3年3月7日開催)において、第46回徳島医学会賞及び第25回若手奨励賞の受賞者が選考されました。

## 第46回徳島医学会賞

**齋藤 裕** (徳島大学病院消化器・移植外科)  
「ヒト脂肪由来間葉系幹細胞から肝細胞様細胞の創出  
-肝不全・代謝性肝疾患に対する肝移植から細胞治療へ-」

**折野 亜衣** (医療法人平成博愛会 博愛記念病院)  
「骨卒中みそ汁提供による25-OH ビタミンD改善への取り組み」

## 第25回若手奨励賞

**三宅(濱田) 哲有** (徳島県立中央病院医学教育センター)  
「腸管子宮内膜症により腸閉塞・敗血症性ショックをきたし、  
経肛門のイレウス管での減圧後待機的手術を行った一例」

**木村 蘭子** (徳島大学病院卒後臨床研修センター)  
「繰り返す脆弱性骨折を契機に発見されたクッシング症候群  
の一例」



## 学遊抄 「長い旅の終わりに」

耳鼻咽喉科学分野 教授 武田 憲 昭

学生時代に阪大医学部ゴルフ部を創部した。私が主将、全学ゴルフ部で共に活動した同級の関本君（関西医大外科教授）が主務、8人の部員でスタートしたが、今では医学部体育会系クラブのなかで最大の部員を擁するまでに発展した。バックを担いで様々なコースでプレイしたことは、青春時代の忘れられない思い出だ。ゴルフ部ではリーダーシップと人の和の大切さを学んだ。ゴルフを西医体の競技にするために、西日本医学生ゴルフリーグも組織した。1979年の西医体の理事会で私がゴルフの加盟申請を行ったが、ゴルフに否定的な理事がいて、危うく否決されそうになった。ゴルフが西医体の正式競技になったのは、

それから10年後であった。徳大が主幹の2016年の西医体で、初めて西医体のゴルフ競技を見ることができた。男子は35校、女子は25校が参加するまでに発展して感激した。また、徳大医学部ゴルフ部の初優勝に立ち会うことができた。我が阪大医学部ゴルフ部は、息子が選手として出場したものの、惜しくも入賞を逃した。



学生時代から第2薬理学教室（和田教授）で研究を開始し、1981年に卒業して耳鼻科（松永教授）に入局してからも2業で研究を続けた。世界で初めて脳内のヒスタミン神経系が同定された瞬間に立ち会えたことが、教職へ進むきっかけとなった気がする。First authorとしてPNASに論文を通した時の喜びはよく覚えている。宇宙医学の国際シンポジウムで親しくなったProf. Igarashiに誘っていただき、ヒューストンに留学した。臨床は久保教授をはじめとする耳鼻科の先生方に厳しく指導していただいたが、今でも感謝している。

1999年12月に阪大耳鼻科助教授から徳大に赴任し、灘高入学以来、27年ぶりに故郷に帰ることになった。教授として22年4か月の任期をいただいたので、最初の10年間は耳鼻咽喉科・頭頸部外科の全ての担当範囲で国際レベルの医療と研究を行うことを目標に、先頭に立って頑張った。後半の10年間ではトップレベルの臨床とオリジナルな研究を行うことを目標とすると同時に、人材を育成し支援した。ほとんどの関連病院で増員することができた。全国学会を4つ開催し、21年目には日耳鼻総会で宿題報告を担当し、日耳鼻秋季大会を開催した。厚生省やAMEDの大型研究費を獲得し、多施設共同研究と橋渡し研究を推進した。

これも全て医局員と関連病院の先生方の協力と、全面的なご支援をいただいた同門会のおかげと感謝している。赴任時に教授会と同門会から託された徳大耳鼻科の立て直しを、何とか達成できたと考えている。医学部の先生方には大変、お世話になり、御礼申し上げます。今後の医学部の益々の発展をお祈りいたします。

## 学遊抄 「自由と自律をもとに、学生に支えられた誕生の喜び」

女性の健康支援看護学分野 教授 岸田 佐 智

教員・研究者として歩み始めて、31年になろうとしています。ももとは、人の誕生に魅せられて助産師になりました。このまま、助産師として経験を積み、お母さんと赤ちゃんへの支援をしていくのだろうと考えていました。母校である高知県立大学（元高知女子大学）から母性看護学を教える教員がいないということで、声をかけていただき、十分な臨床経験がなかった中で、この世界に入る決心をしました。私の教師・研究者としての活動は2部に分かれると思います。1部は前任の元高知女子大学、そして徳島大学です。大学で看護学を教えることはどういうことかの自問自答の毎日だったと思います。そして今でもその問いは続いています。

この期間、常に学生たちに支えられていたように思います。大学とは、自由と自律を求め、そして、知の創造を行っていくところです。高校生から大学生に

なり、卒業までの4年間学生たちが成長していく姿を見てきました。これは、看護者としての第一歩を踏み出す、誕生の手助けをしているのだと考えると、初心である人の誕生と同じことをしていると思います。母親は、子どもの存在があつてこそ、母親になります。私自身も学生たちの存在があつて、教育と研究活動をさせていただいたのだと、つくづく思っております。学生たち、同僚のみなさん、いろいろな方との出会いがあつたと痛感しています。皆さん本当にありがとうございます。1部と2部の間のウィーンでの生活はまたの機会に。



卒業式で



統合実習にて

# 数字で見る医学部

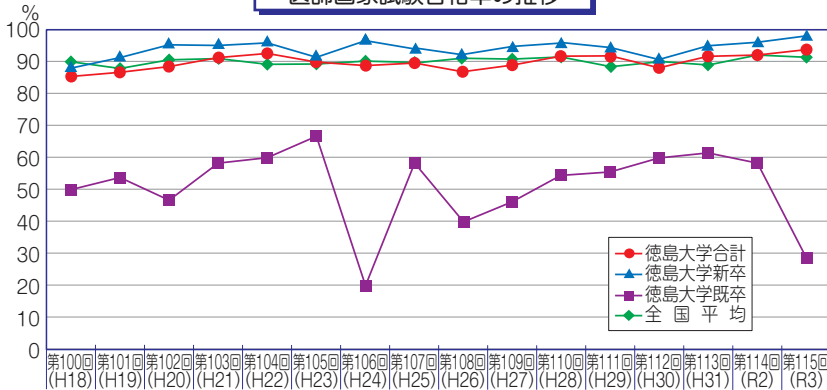
## ◆ 入学試験 (医学・栄養・保健)

令和3年度 徳島大学医学部入学試験受験者・合格者数・入学者数調

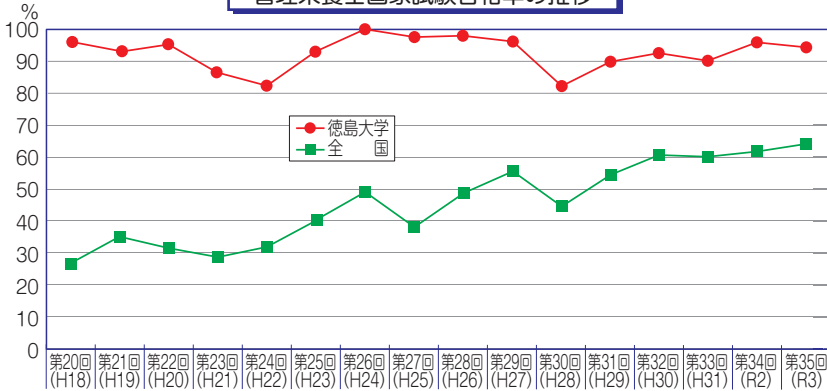
	定員	志願者	受験者	合格者数	入学者数	男	女	県内	県外	その他	現役	一浪	その他
医 学 科	114	328	265	114	114	62	52	26	88	0	66	39	9
医 科 栄 養 学 科	50	159	141	52	52	3	49	17	35	0	51	1	0
保 健 学 科	看 護	70	274	152	74	3	69	39	33	0	65	7	0
	放 射	37	158	94	41	18	19	1	35	1	32	4	1
	検 査	17	45	39	20	17	3	4	13	0	16	1	0

## ◆ 国家試験

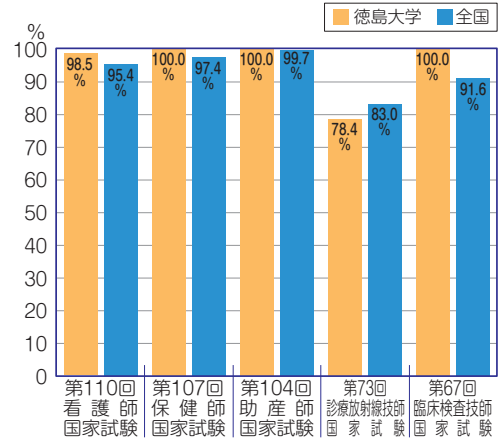
医師国家試験合格率の推移



管理栄養士国家試験合格率の推移



保健学科 各種国家試験合格状況について



## ◆ 科研費採択状況 (医学部・病院の合計)

(令和3年7月1日現在)

研究種目名	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
基盤研究(A)	1	11,700	1	5,500	1	10,400	1	9,100	1	4,600	2	11,800
基盤研究(B)	19	68,700	13	41,600	12	49,200	13	64,900	13	50,600	14	57,200
基盤研究(C)	103	125,600	106	117,000	35	46,200	99	106,700	104	183,100	111	186,900
挑戦的萌芽研究	21	25,500	10	11,800	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究(開拓)			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究(萌芽)			2	4,800	2	3,600	2	4,800	5	8,900	4	12,900
若手研究(A)	4	31,600	4	16,300	4	17,300	2	7,000				
若手研究(B)	57	73,800	50	68,500	27	38,600	7	4,100	0	0		
若手研究							56	77,800	68	130,400	55	99,200
研究活動スタート支援	6	6,800	2	2,100	3	3,400	1	1,430	5	5,500	0(*)	0(*)
新学術領域研究	2	14,900	3	25,800	4	46,000	2	22,200	0	0	0	0
学術変革領域研究(B)									0	0	2	17,300
特別研究促進費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特別研究員奨励費	4	3,400	3	2,500	6	4,800	5	4,300	4	3,900	4	3,600
国際共同研究強化	1	11,200	0	0	1	1,900	1	4,000	1	4,100	1(*)	3,800(*)
合 計	218	373,200	193	294,800	95	221,400	189	306,330	201	391,100	193	392,700

※挑戦的研究(開拓)及び挑戦的研究(萌芽)については、平成29年度からの新規種目。  
 ※若手研究(A)を基盤研究に統合し、若手研究(A)の公募を停止。それに伴い、若手研究(B)の名称を「若手研究」と改名。  
 ※「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究強化」については、継続分のみ記載。  
 ※学術変革領域研究(B)については、令和2年度からの新規種目。

## 令和3年度 診療参加型臨床実習後OSCE成績優秀者

令和3年7月3日、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）の最終評価として、6年生を対象とした診療参加型臨床実習後 OSCE を実施しました。赤池医学部長より Web を通じてのフィードバックと成績優秀者の発表があり、成績優秀者については、後日、表彰式を行い、表彰状と青藍会奨励賞の授与を行う予定です。今年の6年生は新型コロナウイルス感染症の影響により、臨床実習を診療現場で行うことができません、課題学習および遠隔指導となりましたが、このような状況に怯むことなく、今後も優れた医師となることを目指して、努力を続けて欲しいと思います。

**最優秀賞** 木内 華由

**優秀賞** 井上 栞、大井 貴裕、岡野 莉子、亀井 友志、河本 優希、久保 萌加、坂尾祐佳子、林 菜緒、師田 佑美、山本燦志郎



## 新任教職員ご挨拶



令和3年6月1日付けで大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野の教授を拝命いたしました。私は平成6年に広島大学を卒業すると同時に第三内科（現脳神経内科）に入局し、広島大学病院および関連施設にて臨床の研鑽を積んでまいりました。その後、原爆放射線医科学研究所で遺伝学の研究を行い、遺伝性神経疾患をはじめとして麻酔科疾患や歯科疾患の原因遺伝子を解析し、いくつかの新規原因遺伝子を同定してきました。さらに、同定した遺伝子の病因機序を解明するため、CRISPR/Cas9などのゲノ

遺伝情報医学分野 教授 森野 豊之

ム編集技術を応用してモデル動物やモデル細胞を作製し、生化学的および生理学的解析から病態や新たな治療標的を明らかにする研究を行ってきました。また、主に神経変性疾患で孤発例を含む患者集団を用いて遺伝的要因の頻度を調べる疫学的な解析も行ってきました。次々に開発される核酸医薬やがんゲノム医療といった遺伝学的知識のニーズが高まっている昨今の医療・医学の分野において貢献できるよう全力で取り組む所存です。これからご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年7月1日付けでがん看護学分野の教授を拝命いたしました。私は平成16年大分医科大学大学院医学系研究科を修了後、平成18年より徳島大学医学部保健学科成人・高齢者学講座に所属し、高齢者がん患者および遺伝看護に関する研究および教育に従事いたしました。平成19年度からはがんプロフェッショナル養成プラン第I期、中国・四国広域がんプロコンソーシアムに参加し、がん看護専門看

がん看護学分野 教授 今井 芳枝

護師養成WGのグループにて高知大学と岡山大学とともに①がん看護専門看護師養成、②がん看護専門看護師の存在とそのエキスパートネスの理解促進、③がん看護の質向上への貢献に取り組んできました。今後は徳島県下のがん看護に関する情報をアップデートできるように、活動の場を拡げていきたいと考えております。今後とも御指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年8月1日付で、大学院医歯薬学研究部胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 教授を拝命いたしました。私は平成8年に徳島大学を卒業後、教室の前身である第二外科に入局し、徳島大学および関連施設で研鑽を積んでまいりました。呼吸器外科および甲状腺外科を専門としており、研究面では特に肺癌の低侵襲治療に関連する診断・治療法の開発に携

胸部・内分泌・腫瘍外科学分野 教授 滝沢 宏光

わっております。今後も患者さん一人一人に最適な治療を提供することを目標として臨床および研究に取り組むとともに、若い人達に外科の魅力を伝え一人でも多くの外科医を育成し、徳島の地域医療にも貢献することができるよう全力で邁進する所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 新任准教授紹介



異動年月日	異動内容	氏名	所属
R 3. 6. 1	採用	殿谷 一朗	地域運動器・スポーツ医学分野
R 3. 10. 1	昇任	中村 信元	実践地域診療・医科学分野

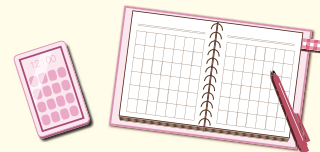
## 医学部行事予定 (令和3年10月～令和4年3月)

令和3年

- 10月1日(金) 後期授業開始
- 10月22日(金) 遺骨返還式
- 11月1日(月) 第116回医師国家試験願書受付 (11月30日(火)まで)  
試験日: 2月5日(土)～2月6日(日)
- 11月2日(火) 徳島大学開学記念日
- 11月12日(金) 第105回助産師国家試験願書受付 (12月3日(金)まで)  
試験日: 2月10日(木)
- 第108回保健師国家試験願書受付 (12月3日(金)まで)  
試験日: 2月11日(金)
- 第111回看護師国家試験願書受付 (12月3日(金)まで)  
試験日: 2月13日(日)
- 11月15日(月) 第36回管理栄養士国家試験願書受付 (12月3日(金)まで)  
試験日: 2月27日(日)
- 11月25日(木)～26日(金) 入学試験 (学校推薦型選抜Ⅰ)
- 11月27日(土) 入学試験 (総合型選抜)
- 12月14日(火) 第74回診療放射線技師国家試験願書受付 (1月4日(火)まで)  
試験日: 2月17日(木)
- 第68回臨床検査技師国家試験願書受付 (1月4日(火)まで)  
試験日: 2月16日(水)
- 12月25日(土)～1月7日(金) 冬季休業

令和4年

- 1月15日(土)～16日(日) 大学入学共通テスト
- 1月29日(土)～30日(日) 大学入学共通テスト(追試験)
- 2月11日(金) 入学試験(学校推薦型選抜Ⅱ)
- 2月25日(金)～26日(土) 一般選抜(前期日程)
- 3月12日(土) 一般選抜(後期日程)
- 3月16日(水) 医師国家試験合格発表
- 3月23日(水) 卒業式・大学院修了式
- 3月23日(水) 診療放射線技師及び臨床検査技師国家試験合格発表
- 3月25日(金)～31日(木) 学年末休業
- 3月25日(金) 助産師、保健師及び看護師各国家試験合格発表  
管理栄養士国家試験合格発表



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。  
(令和2年3月24日)

- 認証評価機関  
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
- 認証期間 7年間

## 編集後記



賛否両論のコロナ禍で開催された東京五輪は閉幕した。日本は史上最多となる金27個を含む計58個のメダルを獲得し、アスリートの活躍は毎日話題を呼んだ。その一方で新型コロナウイルスの第5波感染拡大は終息が見えず、累積感染者数が150万人を超え、重症者数は毎日2千人台が続いており、医療現場の逼迫状況は改善の兆しが見えない。課題は医療提供体制にもあるが、根底には旧態依然の社会体制が挙げられる。ウィズコロナ時代を乗り越える鍵としてDXが叫ばれているが、この1年間でテレワークの普及以外に大きく進展した印象を受けない。アフターコロナに対応できる新たな生活様式の実現に向けて、9月に創設されたデジタル庁の活躍に期待したい。  
(医学部広報委員会 委員長 廣瀬 隼)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会  
広報委員 廣瀬 隼 (委員長)、野間口雅子、勢井宏義、橋本一郎、瀧田康弘、友竹正人、木虎 章

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係) E-mail: [isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp](mailto:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp) までお願いします。  
なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL <https://www.tokushima-u.ac.jp/med/>

医学部ホームページはこちらから →

